

AIFA U-13中学校サッカー選手権大会2018 名古屋 審判割り当て

※ 審判をする上で以下のことに注意してください。
 ・審判を割り当てられているチームで主審(1名)・副審(2名)を担当すること。主審は必ず有資格者(中学生不可)が担当すること。
 ・副審は選手可(ルールに詳しいもの、有資格者が望ましい。**準々決勝以上は選手不可、有資格者のみ**)
 ・主審・副審の割り当ては審判担当チーム同士で事前に話し合って決定しておくこと。
 ・会場担当チームは第4の審判員を担当するため、会場担当チームと対戦するチームは主審を担当すること。
 ・主審は審判服を着用すること。(副審もできる限り審判服を着用すること)

12/8 平田学体(D)、猪高(G)、高針台(H)、港明(J)、当知(K)、楠(L)、大森(M)、南陽(O)、北陵(P)、御田(Q)、山田(R)		
12/9 名古屋(I)、守山東(N)		
12/15 天白学体(B)、日比野(E)、大高(F)、猪高(G)、高針台(H)		
12/16 天白学体(B)、中川学体(C)、日比野(E)、大高(F)		
	第1試合	第2試合
審判	第2試合のチーム	第1試合のチーム

12/8 天白学体(B)			
12/15 中川学体(C)、平田学体(D)			
	第1試合	第2試合	第3試合
審判	第3試合のチーム	第1試合のチーム	第2試合のチーム

☆ 天白学校体育センター(B)、中川学校体育センター(C)、平田学校体育センター(D)、守山東中学校(N)は②の10:30が第1試合です。また、12月9日(日)の名古屋中学校会場(I)は第1試合ア14:00、第2試合イ15:15になります。試合開始時間が異なりますので、注意してください。

1月12日(土) 準々決勝 (副審は選手不可、有資格者のみ)							
日比野会場(E)				大高会場(F)			
	主審	第1副審	第2副審		主審	第1副審	第2副審
① 9:00	協会派遣	第2試合のチーム	第2試合のチーム	① 9:00	協会派遣	第2試合のチーム	第2試合のチーム
② 10:30	協会派遣	第1試合のチーム	第1試合のチーム	② 10:30	協会派遣	第1試合のチーム	第1試合のチーム

1月13日(日) 準決勝・決勝 テラスポ会場(AW)(AE)					
	会場	主審	副審1	副審2	第4審
準決勝 9:30	テラスポW	協会派遣	協会派遣	協会派遣	協会派遣
	テラスポE	協会派遣	協会派遣	協会派遣	協会派遣
決勝 13:00	テラスポE	協会派遣	協会派遣	協会派遣	協会派遣

会場使用について (総会資料より)

- ベンチ及びその周辺には、登録した監督・コーチ・選手以外の者(登録外選手や保護者など)が入らないように、チームで徹底してください。
- ゴミは各チームで必ず持ち帰り、監督責任者で更衣場所の点検を行ってください。(会場付近についても同様)
- スパイクなどについた土や泥は、必ずグラウンドで落とし、更衣場所を汚さないようにしてください。やむを得ず汚れた場合には、掃除して帰るようにしてください。
- 器物破損が生じた場合は、必ず会場責任者に報告し、指示に従ってください。
- 会場へ問い合わせはしないでください。また、保護者の車の乗り入れ、会場付近の路上駐車はやめてください。各会場への自家用車の乗り入れには、**指定駐車券(監督用、審判用)**の提示が必要です。
- 学校・学校体育センター敷地内は禁煙です。また、会場周辺で喫煙の際も、必ず吸い殻の始末をしてください。
- 学校体育センターは**9時以前**に集合しないでください。また、周辺の公園で集合したり、アップ等の活動をしらないでください。

審判について

レフェリーは、ルールが尊重され、試合に関わる全員がサッカーを楽しめるように、選手がプレーに集中できる環境作りを助けるための存在です。安全と公平性が保障された試合となるように、ゲームコントロールに励んでください。

- 競技規則(ルールブック)をよく読みましょう。**
 試合中に気になったことや疑問に思ったことなど、ぜひ競技規則で確認しましょう。
 競技規則で特にチームに指導していただきたいこと、レフェリーとして特に留意して、適用ミスのないようにしていただきたいことは以下になります。
 ① オフサイド
 ・反則が起きた場所からプレーを再開する。(副審は、フラッグアップするまで、ボールを追うことを止めない意識に改める必要がある)
 ・主審が再開場所を決定する。副審は、主審との確認がとれた後、すぐにオフサイドラインにポジションをとる。
 ② ペナルティキックとPK方式
 反則と罰則、再開方法についての適用ミスがないように改めて確認をお願いします。
 それらに間違いがあった場合は本部やベンチから確認するなど、適用ミスを未然に防ぐことができるようにできるとよいと思います。
 ・キックフェイントは最も罰すべき行為である。(警告→相手の間接PK)
 ・ゴールキーパーがキック前に前方に飛び出したことによりゴールを阻止した場合、警告となる。(PK方式中に2度繰り返して退場になる場合もある)
 ・PK方式では、主審のコントスにより、キックするゴールを決める。(PK方式前に2度コントスを使用することになる)
 ・PK方式中でも両チームの競技者の数は同数にする。(キッカーを外れた競技者はベンチに退く)
- 起きた現象(ファウル)をよく見ましょう。**
 ・レフェリーとして、争点がよく見えるポジションに立ちましょう。
 (争点=選手同士が接触する点が見える位置に角度を合わせるために、サイドステップなど活用しましょう。)
 ・激しい身体的接触をともなうプレーはサッカーの醍醐味の1つであると同時に身体接触がある以上ファウルは起きるものです。
 ファウルの意図やファウルされた側の状況(明らかにチームにとって不利になる、身体接触に耐えられない状態でファウルを受けているなど)を見極め、感覚的に決めつけずに、起きた現象(ファウル)をよく見て、急がずに判定しましょう。
- 戦える(タフな)選手を育てましょう。**
 ・プレーオンを活用し、手や腕を不正使用した些細なファウルを受けても、もう1プレーがんばることができるように選手を育てましょう。
 ・激しくタフなプレーは認め、シャツを引っ張るなどの些細でも悪意あるプレーには厳しく対処しましょう。
 正しいチャージでの当たり負けをファウルとしない。ボールにチャレンジせず、相手のプレーを妨げようとするファウルを見逃さない。

試合前の審判員同士の打合せや、試合後の意見交換などを積極的に行い、指導者同士だけでなく、選手や保護者ともルールの理解と共通認識をさらに深めていただきますよう、よろしくお願いいたします。